

経中心静脈留置カテーテル 挿入患者への働きかけ

南5階病棟 発表者 藤井 久美子

金井 都・武内 節子・加藤 祐美子・種山 一美
由上 恵子・浅井 淑子・鈴木 郁子・新井 三恵
関原 さえ子・柄沢 茂美・松山 桂子・守屋 純穂
早川 永子

I はじめに

今日、経中心静脈高カロリー輸液（以下IVHと略す）は、経口摂取が不能、あるいは不十分な患者にとって有効な栄養補給の手段であり、多数の症例に実施されている。当科においても、IVH施行患者は増加し、治療上欠かせないものとなっている。しかしIVH施行中は、日常生活の行動範囲が規制される他、経口摂取が不能あるいは不十分、清潔保持しにくい。又夜間補液が気になり不眠である等、肉体的、精神的ストレスが生じてくる。

そこで、私たちはIVH施行中の患者が闘病生活を送る中で、どのような事に不便を感じているのか、そして、看護婦に対してどのような事を望んでいるのかをアンケートにより把握した上で、IVH施行中の患者への看護を再検討してみた。

II 研究方法

1. アンケート調査

期間：昭和54年6月～55年3月

対象：当科入院患者のうち、IVH留置カテーテル挿入患者23名
(回収17名、回収率73%)

方法：郵送によるアンケート用紙の配布

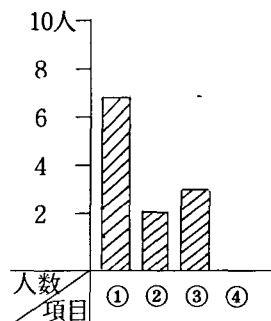
内容：別紙資料1参照

2. アンケート調査結果に基づいた問題点の抽出とその対策

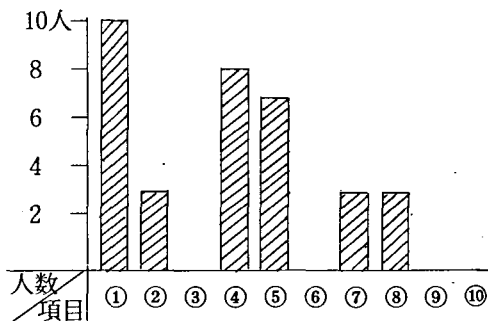
III アンケート調査結果

(含重複回答)

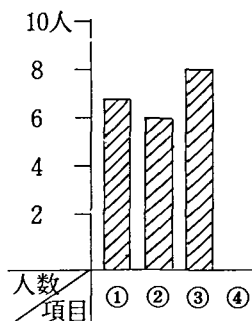
1. 食事について



2. 清潔について

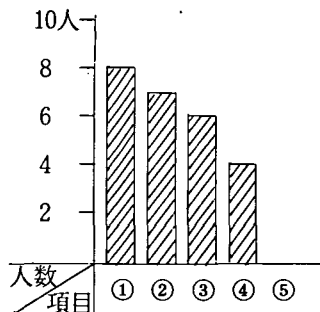


3. 排泄について

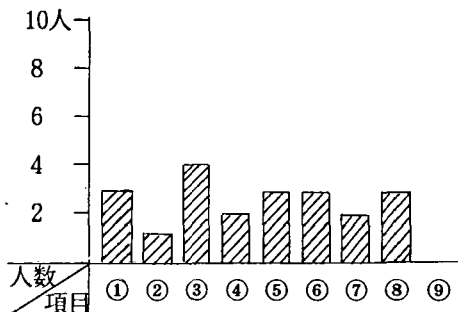


項目は資料1参照

4. 睡眠について



5. 日常の行動について



6. その他、看護婦への要望

- ① 管中の空気が気になった。
- ② 点滴終了がすぐにわかる自動終了装置が欲しい。
- ③ 時々看護婦に清拭して欲しい。
- ④ フィルター固定の際、何か工夫して欲しい。
- ⑤ 時間正確に滴下数を調節して欲しい。
- ⑥ 時々スタンドに油をさして欲しい。
- ⑦ 笑顔で声をかけられると安心する。

IV 問題点及び対策

1. 問題点

- ① I V H留置カテーテル挿入後の注意事項、日常生活に対する説明が不充分である。
- ② フィルター及び三方括栓の固定の再検討。
- ③ 清潔保持ができていない。
- ④ トイレでの排泄が困難になることが多い。
- ⑤ 夜間、輸液チューブや点滴が気になり不眠を訴える。

2. 対策

①に対して、当科ではI V H留置カテーテル挿入患者が多いにもかかわらず、説明が十分にゆきとづいていないため、I V Hの重要性が理解されず様々な問題をおこしていた。(例、点滴を自分で止めてしまう。歩行時血液が逆流してしまう等)そこで、患者にI V Hの必要性、挿入後の日常生活に於ける注意事項等理解してもらい、協力を得、より良い治療がなされる様パンフレットを作成配布し、わかり易く説明を行なった。(資料2参照)

②に対して、中心静脈留置経路は、尺側又は橈側皮静脈及び鎖骨下静脈の2経路が多く利用されている。前者のフィルター及び三方括栓の固定は包帯の上から絆創膏で固定しており、折曲したり、絆創膏かぶれの心配や、日常生活動作においても特に問題はないと思われる。しかし、後者の場合固定がしにくく、上記のような問題がおこりやすいため、今回は後者における固定法を再検討した。

以前はガーゼで保護し、直接前胸部にマイクロポアサーurgicalテープやアクリル絆創膏で固定していたが、かぶれやすく、はがれやすいため、シルキーポアを使用した。巾広のためむれたり、汗ではがれてしまい不潔であるという問題を残した。そこで皮膚の保護と管理上便利であることから皮膚から離しての固定を試みた。プラスチックの固定板をつくり、安全ピンで寝衣の上に固定したが、カテーテル挿入側で固定しなければ、エクステンションチューブがひっぱられたり、輸液

チューブが折曲しやすくなるため、原則として固定位置は挿入側とした。

③に対して、IVH留置カテーテル挿入中は経口摂取不能あるいは制限されることが多いため、歯みがきなどしないことが多い。口腔内の清潔保持及び気分爽快のために、これらをすすめた。また、シャワーを使用した部分入浴は可能であるが、その設備がないため、患者が自分でできる範囲の清拭を行うも、計画には1週間に2回の清拭と1回の洗髪表を作成し、実施するようつとめていいる。尚、フィルター交換及び挿入部の消毒のチェックも同じ計画表に組み入れ、ひと目でわかる様になっている。

④に対して、狭いトイレにスタンドを持ち込んでの排泄は困難であり、不潔になりやすい。各トイレの内側と外側に点滴びん掛けを取りつけ排泄が容易にできる様にした。

⑤に対して、夜間点滴の管理を行っていることを十分に説明し安心させる。又輸液チューブを氷のう掛けに掛け、折曲を予防する様指導した。見廻りの際も気づいた所は適宜直している。

V 評 価

この研究中縫合不全や潰瘍性大腸炎等治療のためにIVH留置カテーテルを挿入している患者よりも、高齢者で、しかも進行した癌による全身衰弱となった患者への適応が多かったため、援助内容が多少違ったものになった。

アンケート結果から食べられない事に対する不満もかなりの比率を占めていた。又、清潔の面においても、状態を観察しながら希望時のみにとどまった。しかし、フィルター及び三方括栓の固定法は、絆創膏かぶれもなく、動きやすく、不快を感じない様になったという感想が多かった。ただ、歩行時フィルター及び三方括栓が重く輸液チューブが折曲しやすいという問題もあり、今後の課題とした。

IVHというものを充分理解できたかどうかは疑問であるが、トイレへの点滴びん掛けの設置や動きやすいスタンドに変えた事等で、患者の煩わしさは少しでも軽減できたのではないだろうか。清拭等の計画表の作成は一見して援助の状態がわかり、実施するにあたり便利である。又、パンフレット作成により看護のレベル統一がはかれた。

VI 考 察

現在、IVHは治療上欠かせないものとなっている。しかし、IVH留置カテーテル挿入による感染、血栓形成、栄養のかたよりによる状態の変化等様々な問題がある中で、今回は日常生活における援助について苦痛の訴えや、看護者に希望する事等を対象として検討を行った。

今回の研究中、進行癌による患者への適応が多かったため訴えが少なかったせいか、患者及び付添者に対して十分な説明が不十分であった。IVHに対しても、ワンパック方式等便利で、しかも患者にとっても日常生活がより快適に送れる様なものが考案されているが、当科では点滴びんを1本ずつ取り変えているのが現状であるが、今後の課題として努力していきたい。

資料 1.

IVHに関するアンケート

該当する欄に○印をつけて下さい。

困ったこと	欄	工夫したこと	要望
<p>(1) 食事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 同室の患者さんの食事を見て食べたかった。 ② 自分のみじめに思えた。 ③ のどがかわいた。 ④ その他 <p>(2) 清潔について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 入浴できないので、体中不快を感じた。 ② 管がべとついて汚ないことが気になった。 ③ 針が入っている所の消毒が少ない。 ④ 管が邪魔で更衣が面倒だった。 ⑤ 絆創膏がはがれやすく気になる。 ⑥ 絆創膏のあとがべとついて不快。 ⑦ 皮膚が乾燥する。 ⑧ 歯をみがかなかった。 ⑨ 洗面が上手にできない。 ⑩ その他 <p>(3) 排泄について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 管が長いので気になった。 ② 採尿しにくかった。 ③ トイレのドアに点滴びんをかける所が欲しい。 ④ その他 <p>(4) 睡眠について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 点滴が気になり夜間熟睡できない。 ② 寝がえりをうつ時、管が気になった。 ③ おしよすいが近くて困った。 ④ 液の臭いが気になり不快だった。 ⑤ その他 <p>(5) 日常生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スタンドが動かしにくかった。 ② 人の眼が気になる。 ③ 洗たく、散歩など行動が制限される。 ④ ドアや、カーテンが邪魔だった。 ⑤ 床の段差が気になる。 ⑥ 接続部の固定が不安だった。 ⑦ 車イスにスタンドがついておらず困った。 ⑧ 点滴抜去後の自分の体力に自信がなかった。 ⑨ その他 			

資料 2.

(I V H をうけられる皆さんへ)

I V H - 経中心静脈高カロリー輸液療法 - とは。

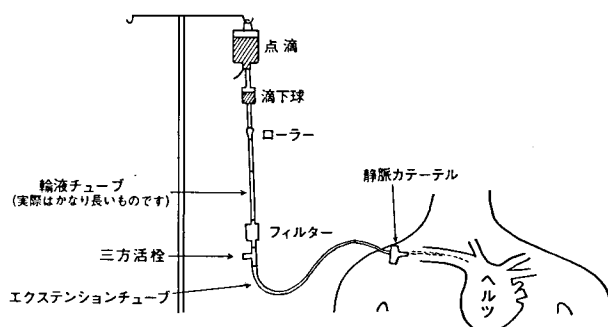
大きな静脈から直接心臓の手前まで細く長いチューブを入れます。一日に必要な栄養分はこれで補えるので食べられなくても大丈夫です。現在は食べたり飲んだりできない人たちにとって、最も効果のある栄養補給と考えられています。

1) 方法

細いチューブから濃い液を24時間かけて点滴します。点滴を通してばい菌が体の中にはいらないようフィルターを使用し日常生活が不便なくおくれるように、長い輸液チューブをつけてあります。

2) 注意事項

- ① 点滴びんの液が残り少なくなってきたら滴下球の中に液があるうちに知らせて下さい。
- ② 接続部がはずれていたら知らせて下さい。
- ③ 歩く時は、点滴びんが自分より高い位置にあることを確認して歩きましょう。
- ④ チューブの挿入部や、その囲りに掻みや痛みがあったら知らせて下さい。
- ⑤ チューブをひっかけたり、ひっぱったりしないで下さい。
- ⑥ 1日の尿量が大切な目安となるので、尿をためて下さい。
- ⑦ 入浴はできませんが、自分でできる範囲の所はきれいにしましょう。
- ⑧ 食べられなくても、歯みがきやうがいをして口の中もきれいにしておきましょう。
- ⑨ 各トイレに点滴びん掛けがついているので利用して下さい。
- ⑩ ベッドに横になっている時は、氷のう掛けなどにチューブをかけ、折り曲げたりしないで下さい。
- ⑪ 車イス利用は、点滴びんがとりつけられるものを使用して下さい。



治療上大切な点滴ですので、看護婦も細心の注意を払って管理致しますが、皆様も上記の事に気をつけて下さい。

何かありましたらいつでもおきき下さい。

第一外科病室